

令和5年度

研究のまとめ

R5 各支部 研究のあゆみ

宮崎県教育研究会 図書館教育部会

①西臼杵

令和5年度 西臼杵支部 研究のまとめ

小学校12校、中学校4校、合計16校

1 研究主題

『豊かな心と学びを育む学校図書館 ～学校司書・司書教諭の役割～ 』

2 研究の実際

(1) 環境整備

- ① 図書館のどこにどんな本が置いてあるのかがすぐに分かる状態が、誰にでも使いやすい図書館であると考え、表示の仕方や分類に工夫をし、低学年でも使いやすいように整理している。また、十進分類法だけでなく、教科書に出てくる本、新しい本、季節の本などは特設コーナーを設ける等、図書館のレイアウトも工夫している。さらに、季節に合わせた飾り等、文字ばかりではなくイラストを取り入れた掲示をし、足を運びたくなるような図書館を目指している。
- ② 各学年、各教室において、児童に読んで欲しい本を掲示することで、本選びに迷う児童が選びやすいようにした。また、教室だけでなく、図書館掲示板や児童玄関前に児童や図書委員会の「おすすめの本コーナー」を設置し、なかなか図書館に行く機会がない児童にも興味をもてるように工夫した。学校図書館だけでなく、各教室等で本を手に取りやすい環境にすることで、児童の読書への意欲がさらに高まった。

(2) 読書推進の取組

- ① 読書ビンゴカードの取組は、職員のおすすめの本を記入してもらい、読書祭り期間中に、選んだカードをクリアしていく取組である。児童自らが選択できるよう、「歴史・偉人・著名人」など様々なテーマのビンゴカードを作成している学校もあった。ビンゴカードの取組により、児童が昼休みに熱心に学校図書館へ足を運ぶ姿が見られるようになり、一人ひとりが目標をもちながら読書量を増やすことができた。(読書ビンゴカード)
- ② 学級や他学年の児童に向けてのおすすめの本を葉書に書いて投稿できるよう、図書館に郵便ポストを設置した。郵便物が届くのを楽しみしている児童も多く、投稿期間は読書量がぐんと増えた。(郵便ポストの設置)
- ③ 読書月間の取組の一つとして、図書館で宝探しを行った。本棚に宝(委員会作成プレミアム1冊プラス券)を隠し、それを昼休みに探すゲームを行った。各学年楽しそうに探す姿が見られ、後日、券を利用して入室する児童が増えた。(宝探し)
- ④ 支援を要する児童の実態把握(学力・認識力)を行い、読書に親しみ、学びを得ることができる図書を選定し購入している。(支援学級担任との連携・選書)
- ⑤ すぐに手にとって使えるタブレットのよさを生かして、電子書籍読み放題サービス「YOMOKKA!」を活用している。生き物や植物のこと等を図鑑で調べたり料理やものづくりの本を見たりして、学習に生かす様子が見られる。
- ⑥ 学期1回、たくさん本を読んだ児童・生徒へ「多読賞・ベストリーダー賞」を渡している。多くの児童・生徒を賞賛し表彰を行うことで、読書意欲が高まり、よい刺激となっている。
- ⑦ 読んだ本の題名やおもしろさを記録できる「読書貯金通帳」を作成して「知識の蓄え」を実感できるようにした。各個人の通帳は機械で印字され記帳されていくので、目に見えて読書の状態が把握できる。
- ⑧ 図書の本を購入するにあたって、児童の興味ある本を把握し、購入する本に反映させるために、毎年、児童による選書会を行っている。新刊図書が並べられた中から、自由に本を手に取り、選ぶ楽しさを味わうことができている。児童自身に選ばせることにより、図書室の本の重複を避けることもできている。

(1) 家庭・地域・図書館サポーターとの連携

- ① ほとんどの学校で、保護者や地域の方による読み聞かせを実施している。全児童が理解しやすい本の選別、また、絵本だけではなく「影絵」「音楽」「歌遊び」などを取り入れる等、児童が楽しめる読み聞かせを工夫して頂いている。
- ② 小中学校併設校においては、併設校の特色を生かし、中学生から小学生、小学校高学年から低学年へ読

み聞かせをしている。(ハイパー読み聞かせ)

- ③ 秋の読書月間には、職員による読み聞かせを行っている。職員に事前に本を選んでもらい、児童が聞きたい本を選べるようにした。その際、児童の実態に応じた内容や特別支援教育に関係する本を中心に選定してもらうことで、児童がより興味・関心をもって楽しみながら話を聞く姿が見られた。
- ④ 日之影町内の学校では、町の図書活動推進支援員の先生と連携し、月に数回来校していただき、様々な取組を行っている。支援員の方による読み聞かせや図書館の環境整備、また、全ての児童にも本探しができるようにアドバイスをいただきながら、図書館サポーターと連携して読書活動の充実を図っている。
- ⑤ 定期的に町内の図書館や県立図書館（やまびこ文庫）から貸し出しを行っている。幅広い種類の本や幅広い学年に対応することができ、貸し出し当初から多くの児童が利用している。
- ⑥ ほとんどの学校で「家読」の取組を実施している。月に1回、長期休業期間等取組の仕方は様々ではあるが、学校だけでなく家庭でも読書意欲を高めるために保護者と連携して取り組んでいる。

2 成果と課題

(1) 成果

- 地域や図書館サポーター等との連携により、学校図書館がさらに充実してきた。
- 各校の工夫ある取組により、特別支援の児童を含め、多くの児童が学校図書館に足を運ぶ姿が見られるようになり、児童の読書への関心が高まりつつある。特に、図書イベントの開催や様々な工夫を行うことで、昨年度よりも貸し出し冊数が伸びている学校が多かった。毎年恒例のイベントを工夫することで貸し出し冊数が伸びていることから、今後も工夫した取組を行っていききたい。
- 学校図書館の機能について、学校司書・図書担当・学級担任の役割を見直すことで、組織的な図書館運営について考える機会となった。
- 中学校においては、文化委員会の生徒や教員が図書貸し出しの本の選定等を行い、司書の役割を果たしている面がある。図書委員会児童の減少や教員の多忙等により図書館運営の課題も多くあがる中、児童・生徒と連携して図書運営を行うことは、小規模校の課題を解決して上でもとても意義深い取組である。
- ほとんどの学校が地域の方と協力を得て、読み聞かせを実施している。読み聞かせの時間は、地域とのつながりの場としてもとても貴重な時間となっている。また、ボランティアの方の選書の工夫により、児童の発達段階に合った本や季節に応じた本に触れることができている。

(2) 課題

- 個別に見ると、本を全く借りない児童もおり、利用者が固定しつつある。個に応じた支援や読書活動の在り方について、今後もさらに考えていく必要がある。
- 児童・生徒の貸出冊数は増えている学校もあるが、内容を見ると実態に合っていないものも多い。児童の発達段階に合った内容に深みのあるものやじっくり読める長い話にも目を向ける取組を考えていきたい。
- 各学校や地域等のネットワークとさらに連携し、研究を深めていきたい。
- 学校図書館を授業で活用できるように、年間を見通した図書館活用計画や指導計画を作成する必要がある。
- 小規模校の学校が多いため、図書館教育に十分な時間をかけることができず、図書館運営が厳しい実態がある。また、全ての学校に図書司書が配置されていないことや、図書サポート機関が充実していない地域もあり、サポート面において学校間の差も大きい。図書館教育を充実させるためには、学校内だけの体制だけでは限度があるため、地域全体の体制を整える必要がある。

(研究担当者 高千穂町立押方小学校 辻 明日香)

②東臼杵

令和5年度 東臼杵支部 研究のまとめ

小学校 11校、中学校 4校、義務教育学校 2校、合計 17校

松尾小学校の活動の取組

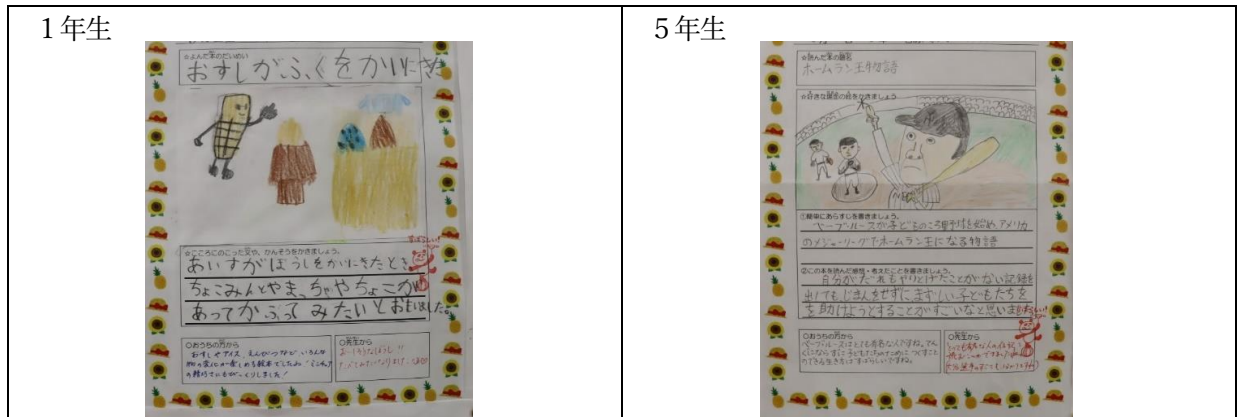
1 家族で読書月間

(1) 目的

長期休暇中、5冊以上の本を家族で読むことを目標にして、本に親しむ機会をつくり、読書習慣の定着を目指す。

(2) 方法・内容

夏休みと冬休みの年2回、ワークシートに「おすすめの1冊」を決めて記録し、図書室に掲示する。



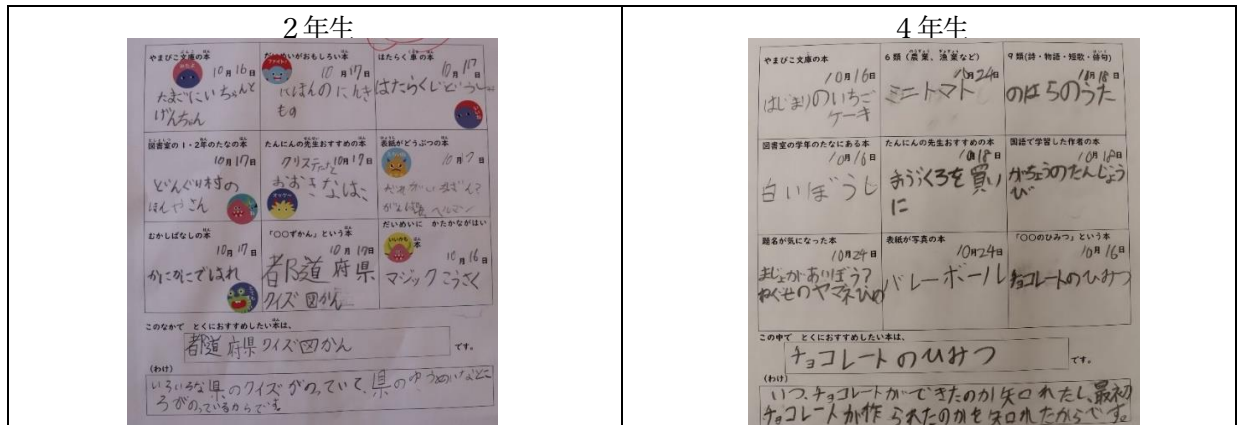
2 読書ビンゴ

(1) 目的

読書ビンゴを通して、いろいろなジャンルの本に親しみ、楽しく読書の幅を広げる。

(2) 方法・内容

運動会後の1ヶ月間、低・中・高学年用に作成した読書ビンゴを中心とした読書を行い、ワークシートに記録する。



3 成果と課題

(1) 成果

- 親子で同じ本を読んだり、読み聞かせしてもらったりして、感想を交流し合うことができ、よい家族の時間になったという声があった。
- 全学年のワークシートが掲示してあり、図書貸し出しの際にそれを参考にして本を選ぶ姿があった。
- 読書ビンゴは、学年に応じた内容だったので、取り組みやすかった。
- 普段読むことがなかったジャンルの本を手取るきっかけになった。

(2) 課題

- 家庭によって、取り組み方に差があった。
- ビンゴにしたいという気持ち強いあまり、パラパラとめくって読んだ気になる児童もいた。
- 期間中は読書に対して主体的であるが、継続した読書習慣には個人差がある。

(研究担当者 椎葉村立松尾小学校 久木元 亜郁)

椎葉中学校の活動の取組

1 学級文庫の設置

(1) 目的

学校行事が多い中でもできるだけ本を手にする機会を増やすため。

(2) 方法・内容

県立図書館の「やまびこ文庫」を利用して各学年(各学級)に配置。



2 ビブリオバトルの実施

(1) 目的

読書の機会を増やし、本を様々な観点で読むことができるようにするため。

(2) 方法・内容

本来のビブリオバトルは5分間のプレゼンテーション。3分間の質疑応答の合計8分間で行われるが、今年度から始めたこともあり、5分間話しきることは難しいので、4分間のプレゼンテーションのみの実施を行った。

- ① 全国のビブリオバトルの動画を見せて、ビブリオバトルがどういうものかを理解させた。
- ② 1学期→学級内の4～5名の班で実施。発表後は【良かったこと】と【改善するとよいこと】を1つずつ伝え合う。
- ③ 1学期の反省として、本を読み慣れていない生徒の発表が4分間できないことが分かったので、以下のようなワークシートを作成し、支援を行った。
- ④ 2学期実施の際は班で発表→班の代表が学級全体の前で発表を行い、学年の1名を最優秀とし、各学年1名の代表者が文化発表会で発表した。
- ⑤ 学年の代表になった生徒には、学年の最優秀賞として表彰を行う。

項目	内容	備考
本のタイトル	(タイトルを省略)	本の種類
作者・著者・挿絵者	(著者名を省略)	
出版社/発行年		本の長さ
いつ読んだか		
(読後感)		本の面白さ
どこで買ったか		
なぜ読むようになったか		本の分析
どんなテーマをより詳しく(自分の感想)		
キーワード		核心
テーマを考えた理由		
自分の本とどう違うか		登場人物
テーマから考えられる一冊の本のキーワード		
読後について		動機
この本の一番の山場		
読後		その他
読後したい登場人物		
その登場人物の能力		
自分から読みたい理由		
読後した本について		
読後した本について		
読後した本について		
読後した本について		
読後した本について		

経過時間	話す内容	聴く・質問相手の反応
0:30		
1:00		
1:30		
2:00		
2:30		
3:00		
3:30		
4:00		



- ↑各学年一人ずつの発表(4分×三人)
←使用したワークシート
- ⑤項目を細かく設け、話しやすくした。
 - ⑥時間配分まで考えられるようにした。

3 成果と課題

(1) 成果

- 読書をする生徒が増えた。紹介された本を読む生徒もいた。
- 4分間をしっかりと話すため原稿を考えたり、質問を投げかけたりするなど、話し方を工夫する生徒も増えてきた。
- ビブリオバトルのワークシート作成を通して、読書感想文を書く際に様々な視点で本を読むようになり書いている内容にも工夫がみられるようになった。

(2) 課題

- 個人差があるので、本当に読書の苦手な生徒が取り組めるように働きかけたい。
- 読書をする生徒が増えてきたが、自分の好きな本ばかりになっているので、図書室にある様々な本にも触れさせたい。

(研究担当者 椎葉村立椎葉中学校 渡邊 俊介)

魅力的な学校図書館づくり

～年間を通して足を運びたいくなるような学校図書館を目指して～

日向市立日知屋小学校 教諭 末永 美幸

1 はじめに

本校は、日向市の東部に位置し、静かな住宅街と塩見川、お倉ヶ浜など自然にも恵まれた落ち着いた環境にある。児童数は179名の計9学級からなる中規模校の小学校である。本校の児童の読書傾向としては、読書を好み、毎日学校図書館に通う児童がいる一方、ほとんど本を読まない児童もおり、偏りが見られる。このような実態から、どの児童も本に興味をもち、足を運びたいくなるような学校図書館づくりを課題として取り組んだ日知屋小学校の実践を紹介する。

2 研究の実際

(1) 読書量を増やす取組

① 家読の取組

- ・ 中学校校区全体の取組として、毎週木曜日を家読の日として、全校で取り組んでいる。

② 読書通帳

- ・ 読んだ本を読書通帳に書き、1～3年生は80冊、4～6年生は50冊読んだ児童にしおりのプレゼントをし、図書室の掲示板に氏名を掲示している。

③ 学級文庫の貸し出し

- ・ 市立図書館と連携して、学期ごとに各学級30冊を借りている。また、それに加えて、授業で使う本を70冊以内で借りることもできる。市立図書館の本は、学年に応じた本や教科に関する本など様々なジャンルの本がある。
- ・ 学級文庫として学校図書館の本の貸し出しを行っている。教科書に出てくる本や学年に応じた本を貸し出している。

(2) 設営の工夫

① 季節に合わせた掲示

○ こいのぼりを作ろう

- ・ 5月の図書室前の掲示として、模様のないこいのぼりを掲示し、本を借りるごとに「うろこ」を貼り、全校児童でこいのぼりを完成させることを目指す取組を行った。



○ 七夕飾り

- ・ 7月の図書室前の掲示として、笹のイラストに短冊を飾るイベントを実施した。本を借りた児童に短冊を渡し、自分の願いを書いて貼るようにした。

○ 読書玉入れ

- ・ 運動会練習の期間中に運動会の団に分かれて、読書量で競うイベントを実施した。図書室前に掲示された赤団と白団の玉入れのかごに、本を借りるごとにシールを貼っていくという取組で、図書委員会の児童が中間発表の放送を行い、全校児童への意識づけを行った。



○ 図書神社

- ・ 1月の掲示として「図書神社」を作り、本を借りた児童はおみくじを引けるようにした。

(3) 児童による図書委員会活動での取組

① 昼休みの図書の貸し出し

- ・ 図書委員会の児童2、3名で昼休みの本の貸し出しを行っている。担当の曜日を決めて、毎日学校図書館を開館できるようにしている。

② 図書委員会によるイベントの実施、運営

○ 読書ビンゴ

- ・ 11月の読書月間の取組として、図書委員会の児童が、学年ごとに読んでほしい本の種類を選び、読書ビンゴを行った。読書ビンゴがそろった児童には、廃棄する本をアップサイクルしてしおりにしたものをプレゼントした。

○ 季節の掲示物の作成

- ・ 季節に合わせた各取組に向けて掲示物の作成を行った。また、七夕の短冊やしおり、おみくじなど、それぞれの取組に必要な物の作成を行った。

○ 全校児童への周知

- ・ 給食中の校内放送にて、学校図書館で行う取組について、全校児童へ周知を行った。

③ おすすめの本の紹介

- 図書委員会の児童がおすすめの本に紹介カードをつけて「おすすめの本のコーナー」を設置した。

4 研究の成果と課題

(1) 成果

年間を通して、足を運びたいくなるような学校図書館づくりを目指した取組を行った。児童は、季節に合わせた様々な取組にとっても興味を示し、楽しんで学校図書館を利用する様子が見られた。その結果、取組に合わせて貸し出し冊数も上昇した。そして、本年度5月の貸し出し冊数が0冊だった児童が4名いたが、10月は0名に減少した。特に読書玉入れのイベントを行った10月の貸出冊数が増加しており、児童の運動会に対する興味の高さから学校図書館へも興味をもち、足を運んだと考えられる。加えて図書委員会による読書玉入れの中間発表の放送も児童の意識づけに効果的だったと考えられる。

(2) 課題

読書量は増えたものの、読む本のジャンルには偏りが見られる。児童は(9)文学を好んで読み、3112冊借りているが、(8)言語の貸し出し冊数は60冊と極端に少ない傾向にある。学校図書館に所蔵しているジャンルごとの冊数に偏りがあり、(8)言語の本は特に少ないことが要因の一つだと考える。今後は、こういった偏りを少なくしていく努力が必要である。また、図書委員会の児童がおすすめした本は、他の本と比べて貸し出しが多いが、おすすめの本にもジャンルに偏りがあったため、今後は意識的にジャンルを振り分けて紹介する必要がある。

5 おわりに

魅力的な学校図書館づくりにおいて、今回年間を通して多くの取組を行った。図書委員会の児童は、季節ごとの取組を楽しみながら作り、運営している様子が見られた。特に読書玉入れでは、各団の勝敗に興味をもち、クラスメイトにも積極的に声をかける場面があった。年間を通して、学校図書館を魅力的にする取組は、担当者の負担が大きいと感じるが、児童や他の先生達と協力しながら、楽しんで取り組むことで、自然と児童が足を運びたいくなるような学校図書館になるのではないかと感じた。これからも、児童の興味・関心を生かして様々な取組を行い、魅力的な学校図書館を作っていきたい。

④延岡

令和5年度 延岡支部 研究のまとめ

小学校26校、中学校15校、義務教育学校1校 合計42校

1 研究主題

『確かな学力を身に付けた児童生徒の育成 ～ 地域・家庭・公共図書館との連携を通して ～ 』

2 研究の実際

(1) 第1回 図書館教育部会 「今年度の研究等について」

- ① 役員選出 新役員の紹介・あいさつ
- ② 今年度の研究等について (研究主題・副題・研究計画・予算案)
- ③ 令和5年度九州地区学校図書館研究大会宮崎大会について
- ④ 令和6年度宮崎県学校図書館教育研究大会県北大会について

(2) 第2回 図書館教育部会

- ① 各学校での取り組みについて(グループ協議・発表)
- ② 発表者における中間報告 (別紙資料)
- ③ 研究の方向性・まとめ
- ④ 令和6年度宮崎県学校図書館教育研究大会県北大会について
- ⑤ 読書感想文画コンクール審査について(当日の出欠・お弁当の有無等のアンケート)

(3) 第3回 図書館教育部会 「読書感想文・感想画コンクール審査会」

- ① 読書感想文の進め方 (図書室)
 - ア 各校出品数と応募票を確認する。
 - イ 学年・類別ごとに作品を分ける。
 - ウ 審査 (自分の担当学年以外の学年を審査する)
 - ※ 小学校・・・学年ごとにグループを作って審査を行う。
 - ※ 中学校・・・3学年に分かれて審査を行う。小学校の審査を手伝う。
 - エ 県出品作品の確認
 - ・ 県出品名簿は審査グループごとに記入し、審査終了後に提出する。
 - ・ 各校の出品状況は、本部で学校応募票を見ながらエクセルに入力する。
 - ・ 県出品作品で訂正が必要な場合は、用紙をつけて返却し、再提出する。
 - オ 作品の振り分け
 - ・ 県出品分は、学年・類別ごとにまとめる。
 - ・ 各校返却分は各校の出品者名簿に入選者名を記入し、選外作品は学校名が書いてある封筒に置く。
- ② 読書感想画 (会議室)
 - ア 各校出品数と応募票を確認する。
 - イ 学年・類別ごとに作品を分ける。
 - ウ 審査
 - ・ 2名の講師を中心に審査する。
 - ・ 審査に参加する会員は、感想文審査の様子を見ながら交代で参加する。
 - ・ 県に出品する作品が分かるよう、裏面の応募票に付箋をつけておく。
 - エ 全員で審査室に移動し、講師から読書感想画の審査結果及び講評をいただく。
 - オ 県出品作品の確認
 - ・ 県出品名簿は審査グループごとに記入し、審査終了後に提出する。
 - ・ 各校の出品状況は、本部で学校応募票を見ながらエクセルに入力する。
- ③ 作品の振り分け
 - ア 県出品分は、学年・類別ごとにまとめる。
 - イ 各校返却分は各校の出品者名簿に入選者名を記入。選外作品は学校ごとに分ける。
 - ウ 講師2名からの講評(読書感想画選定のポイント・指導法・技法の説明)
 - エ アンケート用紙の記入

3 今年度の取組

(1) 各学校の取組の紹介 (一部)

- ① 中学校Aの取組

A中学校では、令和元年度から毎年、延岡市立図書館による学校図書支援事業を活用して、全校国語（アニメーションについての学習）を行い、12月の「図書祭り」で生徒の手によるアニメーションを行っている。全校国語では、国語科教員の司会のもと、市立図書館の支援員の方々（6名程度）が選書、アニメーションの説明、活動の説明等を行い、全校生徒がアニメーションを学ぶことで、図書祭り（昼休みを活用）の生徒によるアニメーションもスムーズに取り組むことができている。選書から問題作り、正解者へのプレゼント（栞）まで生徒（学習図書委員会）が自主的に行っている活動である。

② 中学校Bの取組

B中学校では、昨年度から6月と10月に親子で読書する週間を設定している。四つのコースから選択し、家庭での読書に取り組んでいる。

- ア 保護者が子どもに読み聞かせをする。
- イ 子どもが親や兄弟に読み聞かせをする。
- ウ 場や時間を共有して、それぞれの本を読む。
- エ 別々に本を読み感想を共有し合う。

生徒から「あまり本を読まないで、いい経験ができた。家族で触れ合う時間がとても楽しかった。」「お父さん、お母さんと本を読むのは楽しかった。この時間が増えるといいと思った。」などの感想が多く、普段あまり読書に興味を示していない生徒が、読書は楽しいと思えるきっかけになっている。保護者からも、「子どもと一緒に読書をする時間はとてもいい時間でした。なかなかこんな時間はとれないけど、普段の生活の中に取り入れようと思います。」などと取組に対する前向きな意見が多く、家庭で読書を楽しむ時間をもつ環境づくりを促進している。

③ 小学校Aの取組

A小学校では、読書への興味関心を高め、文章を読む機会をつくるため、毎週火曜日は読書の日とし、火曜日の家庭学習の時間は、全児童、読書をしている。そして、学年に応じて、簡単な感想文を書くようにしている。11月は、読書月間として、①全校朝会を活用した、図書委員会によるビブリオバトル ②おすすめの本の紹介（おすすめの本の木を低・中・高学年ごとにつくる） ③しおりづくり ④市立図書館の支援員の方々によるアニメーションの実施 ⑤上級生が下級生に読み聞かせをする、にじいろ読み聞かせ を実施した。昨年度より、第二図書室（にじいろ図書室）を整備している。リラックススペース的な雰囲気にすることで、子どもの居場所として活用したり、絵本や保護者・地域の方々向けの本を置き、地域コミュニティの場としても活用したりする予定である。

4 研究の成果と課題

(1) 成果

- 令和6年度の県北大会に向けて、発表内容を協議し、方向性を示すことができた。
- 審査会で、美術専門の講師を招いて読書感想画の審査及び講評を行うことにより、読書感想画の取組方や指導の方法などを学ぶことができた。

(2) 課題

- 延岡支部のすべての学校で、何らかの形で、地域・家庭・公共図書館と連携する取組を行うことができるとよい。
- 読書感想文の審査で、誤字や脱字が多かった。

1 研究項目・内容

『学習情報センターとしての学校図書館の活用について』

2 研究の実際

第1回西諸県地区図書館教育部会において、学習情報センターとしての学校図書館の活用について各学校の特色や状況を踏まえて取り組むことを確認した。さらに、「各教科及び総合的な学習の時間との関連からの活用実践」「学習情報センターとしての学校図書館の利用指導」「学習情報センターとしての学校図書館における学び方指導」「学習情報センターとしての学校図書館の資料準備と充実」「学習情報センターとしての学校図書館の活性化」のいずれかについて各校で取り組み、それを共有することで、各校での取組に活かせるようにした。その実践例が以下である。

(1) 学習情報センターとしての学校図書館の利用指導

- ・児童生徒が興味をもつ、あるいはもってほしい本のコーナーの設置
(季節の行事、防災、保育、家庭、部活動など)
- ・貸し出し図書冊数の提示、「100冊目標カード」の作成による読書意欲の喚起
- ・協力員との連携による「本の返却期間を守る」「室内での過ごし方」等の指導
- ・夏季研修を利用した職員対象の研修の実施
- ・掲示物による「学習情報センターとしての学校図書館」の意識付け(写真①)

(2) 学習情報センターとしての学校図書館の資料準備と充実

- ・「授業支援図書計画表」(単元名、内容、分類番号を明記)の作成と活用
- ・「資料収集計画表」(図書館を活用したい教科や単元、内容の詳細まで明記)の作成とそのための研修
- ・図書室で授業を行うための黒板の整理
- ・調べ学習に必要な図書の選定と購入
- ・協力員との連携による学校図書館の整備(書架の整理、蔵書の廃棄、館内の整備等)
- ・新聞(こども新聞、宮崎日日新聞等)の設置[写真②]
- ・DVDコーナーの設置[写真③]

(3) 学習センターとしての学校図書館の活性化

- ・「本屋大賞」「先生の推薦する本」のコーナーの設置
- ・DVDを視聴できるコーナーの設置
(学校に送付されてくる上級学校紹介、歴史、福祉に関わるもの、歴代の部活動の活動の様子を収めたもの等を、昼休みに視聴できるようにした。)
- ・職員、保護者、地域の方も参加しての「ビブリオバトル」の実施
(推薦する本を紹介し合い、意見交換を行う)
- ・あえてタブレットを使用せず、図書室の資料を使って行う調べ学習
(京都案内を作成する)
- ・「表現技法」(体言止め、擬人法、対句等)が使われている文章を図書室の本から探したり、図書室にある『論語』に関する本から「座右の銘にしたい言葉」を探したりしてまとめる授業の実施(国語科)[写真④⑤⑥]
- ・意見文の材料(新聞記事)収集、漢字検定、英語検定の学習の場としての提供
- ・各種検定の問題集や参考書、宮崎県や小林市のパンフレット等情報誌の設置
- ・図書委員会が主体的に活動するためのマニュアルの作成



[写真①]意識を促す入口の掲示物



[写真②] 新聞コーナーの様子



[写真③] DVDコーナー



[写真④] 季語を調べる活動



[写真⑤] 絵本作りの活用



[写真⑥] 俳句を作る活動

3 研究の成果と課題

(1) 成果

- 「学習情報センター」としての学校図書館を意識して活動することで、「図書室は楽しい場所、便利で魅力的な場所」という捉え方が児童生徒に広まり、利用者の増加につながった。
- 「学習情報センター」としての学校図書館を周知したことで、学校生活のさまざまな場面で図書室が利用されるようになり、児童生徒の交流の場、情報交換の場となる場面が見られるようになった。

(2) 課題

- 図書館教育担当者以外の職員に対し、「学習情報センター」としての図書室の利用について、さらに意識の向上を図る必要があるが、そのための研修時間の確保が課題である。
- 今後も協力員および地域の図書館と連携し、図書館の機能の充実を図る必要がある。その反面図書館サポートの人員が配置されていない学校もあり、校内の職員でどのように対応していくかが大きな課題である。

令和5年度 都城支部 研究のまとめ

「都城市立有水小学校」の活動の取組

『自ら本を取ろうとする児童を育てる学校図書館経営』

※尚、令和4年度に取り組んだ内容の報告も含まれます。

1 読書活動の工夫

(1) 国語科の教科書と関連付けたコーナーの設置

国語科教科書の「この本読もう」で紹介されている作品を中心に、さらに各単元の巻末で紹介されている作品を収集している。また、広がりのある単元の並行読書で活用できる作品も選定してきた。それらの図書は、学年ごとに紹介コーナーに配架し、活用しやすい環境を整えた。国語科の教材に対する関心を高めることを意図している。



(2) 「学年のイチオシの本」コーナーの設置

学年ごとに「学年のイチオシの本」を選定し、「イチオシリスト」にチェックしながら6年間で「イチオシの100冊」を読めるようにした。厳選された作品に触れることで、学年にふさわしい読書への意欲付けを図っている。



(3) 「家読カード」の活用

5月から毎月「家読週間」を設定し、家庭での読書をすすめている。中学校のテスト期間等も考慮し、取り組みやすくなるよう配慮しながら実施している。

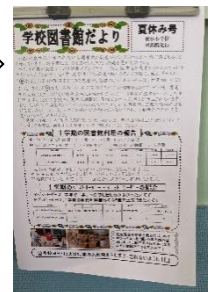
(4) 市立図書館の貸し出し本の活用

都城市立図書館と連携し、学級文庫として各学年 25冊ずつ、毎月入れ替えをしている。発達段階、季節、教科書関連本など、専門家の立場での選書が有難い。

2 図書館利用が活性化するための手立て

本校では、図書館の利用を活性化するために、ボランティア、図書館サポーター、保護者などと連携した取組を行っている。

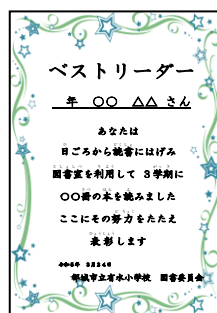
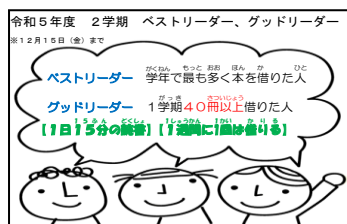
- PTA向け『学校図書館だより』を毎月発行し、学校図書館の情報を発信するとともに、家庭での読書を推進。



- 読み聞かせボランティアによる読み聞かせの実施。



- 図書館サポーターによる、給食時間の放送でのお話タイムの実施。
- 夏休み登校日での本の入れ替え。
- 毎週月曜日「有水タイム」での「読書の時間」を設定（不定期）
- 「ふるさと宮崎コーナー」などの設営の工夫
- 学期ごとに、学年のベストリーダー・グッドリーダーの表彰。



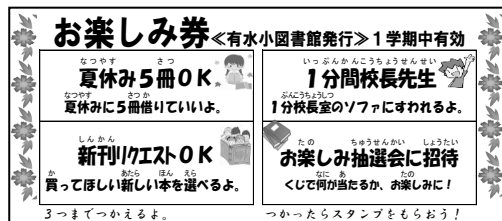
3 学期ごとの読書活動（イベント）の工夫と推進

① 1学期の「読書スタンプラリー」の取組

- ア ねらい 本に親しむ機会をもつことで、読書に対する興味・関心を高める。また、自ら学校図書館を利用しようとする意欲を高める。
- イ 方法 低・中・高学年ごとに数の違うスタンプカードを配付し、借りた冊数のスタンプを貯めていくと[3冊OK]や[お楽しみ券]などの特典がある。
「お楽しみ券」には、校長先生に参加していただく企画もあり、児童の意欲が高められる。

カードの例(低学年)

有水小どくしょスタンプラリー				
①	②	③	④	⑤
⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
⑪	⑫	⑬	⑭	⑮
⑯	⑰	⑱	⑲	⑳



② 2学期の「読書ビンゴ」の取組

- ア ねらい 様々な分野の本に出会う機会をもたせ、さらに学校図書館を利用しようとする意欲を高める。また、本の分類に興味をもち読書以外の本の楽しみ方を味わわせる。
- イ 方法 9類の文学以外の本や教科書ですすめている本を借りるようにしかけがしてあるビンゴカードを作成する。16 マスのオールビンゴ1回ごとに特典があり、3回目のオールビンゴでは、委員会特製のしおりや「お楽しみ券」がもらえる。借りる本が限定されすぎないように配慮として、自由に選べるマスも多く設定してある。
さらに、先生方の好きな本を聞いて回るというカードが発行され、全職員でイベントを盛り上げる工夫をしている。

どくしょ 読書ビンゴスタンプ		
2学期中 3冊まで OK	先生の好きな本 な～に? めぐり券ゲット	特製しおり &追加貸し 出し券ゲット
オールビンゴでスタンプ1こもらえます		

有水小学校「2学期の読書イベント」 読書ビンゴでしおりやプレゼントをゲット!				
年 名前	1 ()	2 ()	3 ()	4 ()
1冊目	2冊目	3冊目	4冊目	5冊目
6冊目	7冊目	8冊目	9冊目	10冊目
11冊目	12冊目	13冊目	14冊目	15冊目
16冊目	17冊目	18冊目	19冊目	20冊目

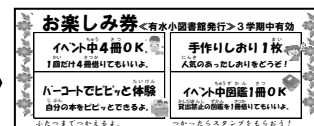
有水小学校「2学期の読書イベント」 先生めぐりの旅に出かけよう!	
年 名前	1 ()
【先生めぐりのやりかた】 ①先生が好きな本をめぐりだした本はなんですか? とたずねる。 ②数までたずねて先生のサインをもらう。	
先生のサインを記入するところ	
2学期のお楽しみ抽選会に参加できます。	

③ 3学期の「読書貯金」の取組

- ア ねらい 物語や文学の本に興味をもち、本を選ぶ楽しみや読書への関心を高める。学年に応じた本に数多く接する機会をもたせる。
- イ 方法 「国語の教科書ですすめる本」を数多く読ませるためにポイントの数に工夫がしてある。集めたポイントによって、「図書おみくじ」や「お楽しみ券」がもらえる。

有水小 読書貯金通帳	
自分の学年のおすすめの本 学年のイチオシの本	3 スタンプ
【百の位が9】の本 (物語や文学・絵本)	2 スタンプ
4・5・6年生の絵本は1スタンプ	
【百の位が9】以外の本 (伝記・歴史・科学など)	1 スタンプ

有水小 読書貯金通帳									
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
31	32	33	34	35	36	37	38	39	40
41	42	43	44	45	46	47	48	49	50
51	52	53	54	55	56	57	58	59	60
61	62	63	64	65	66	67	68	69	70
71	72	73	74	75	76	77	78	79	80
81	82	83	84	85	86	87	88	89	90
91	92	93	94	95	96	97	98	99	100



4 まとめ

継続して読書活動を計画していくことで、年々読書量が増加しており、昨年度は年間一人平均が100冊を超えることができた。今後も、全職員での共通理解を図り、学校全体として児童への働きかけをしていくことが大切である。

〈研究担当者 都城市立有水小学校 小川 奈保子〉

⑦児湯

令和5年度 児湯支部 研究のまとめ

小学校11校、中学校6校
小中一貫校2校、義務教育学校1校

本年度は、令和6年度の県大会発表に向けた令和5年度の進捗状況を報告する。

- 1 研究項目
学習情報センターとしての学校図書館の活用

2 研究計画

(1) 令和5年度

月 日	内容
6月23日	第1回児湯学校図書館教育研究会 ・ 令和5年度九州大会模擬発表 研究主題「豊かな心と学びを育む学校図書館」 ・ 令和6年度宮崎県大会発表者決定
8月24日	第1回児湯郡図書館教育部会小学校分科会（川南町・都農町） ・ 令和6年度発表研究主題の確認 研究主題「学習情報センターとしての学校図書館の活用」 ・ 研究内容の確認 授業を中心に、日常的な指導や学びを深める場としての活用
9月～2月	川南町・都農町の各小学校で実践し、記録を集める
10月13日	第2回児湯学校図書館教育研究会 ・ 読書感想文・感想画コンクール審査 ・ 研究の進捗状況の確認
3月中	実践の結果と活動の記録を発表者に提出
3月下旬	発表者が「研究のまとめ」を作成する。

(2) 令和6年度

月 日	内容
4月上旬	第2回児湯郡図書館教育部会小学校分科会（川南町・都農町） ・ 「研究のまとめ」の内容検討
5月上旬	第3回児湯郡図書館教育部会小学校分科会（川南町・都農町） ・ 「研究のまとめ」の内容確認（最終）
6月上旬	発表者が県事務局へ「研究のまとめ」を提出

3 研究の実際

(1) 図書委員会の児童を中心とした図書館来館促進活動

- ・ 昼休みに、図書委員会が、図書室で絵本の読み聞かせを行った。
- ・ 来場者には、図書委員会の児童が作成したしおりのプレゼントをした。
- ・ 1・2・3年生向け、4・5・6年生向けに日にちを分け、それぞれの学年の発達段階に応じた本を図書委員会の児童が選んで読み聞かせを行った。



- 結果 ○ 普段は図書館に来館しない高学年の児童が読み聞かせ会に訪れた。
○ 読み聞かせ会の前後に図書貸し出しを行う児童が見られた。

(2) 図書館司書と連携した読書意欲推進・図書館来館促進活動

- ・ 11月の読書月間から冬休み開始までの約1か月半、本を借りた児童にシールを配る。
- ・ シールは学級にあるツリーの絵に貼る。
- ・ 学級ごとに、合計何冊借りたか3学期に結果発表をし、多いクラスを表彰する。



結果：貸出冊数が多い学年は他の月の2倍近くになった。
授業で図書館を利用する学年も増えた。

(3) 川南町内の小学校が連携した読書意欲推進活動

- ・ それぞれの学校でおすすめの本の紹介ポスターを作成し、学校間で交換する。
- ・ 交換した先の学校で、図書館に掲示し、読んだり面白いと思ったら、感想に合うシールを貼っていく。
- ・ 交換期間終了後、作成した学校に返却し、再びおすすめの本として図書館に掲示する。



結果：紹介ポスターを見ながら、次に借りる本や読む本を選ぶ児童がいた。

4 成果と課題

(1) 成果

- ① 各学校、全体的に貸出冊数が増えた。
- ② 普段図書室利用が少ない高学年も、図書に親しむことができた。
- ③ 図書の選定の視野を広げることができた。

(2) 課題

- ① 学びを深める場として、今後もっと図書館利用の幅を広げていく方法を考える。
- ② 読書推進月間だけでなく、今後も日常的に図書館利用増やしていく必要がある。

5 おわりに

本年度は、令和6年度県大会発表に向けての研究の前半である。本年度の取組の成果と課題をもとに、より図書館を身近なものにし、豊かな心と学びを育む場として活用できるようにしていきたい。

⑧西都

令和5年度 西都支部 研究のまとめ

小学校 8 校、中学校 6 校、合計 14 校

1 研究主題

『魅力的な学校図書館づくり～豊かな心と学びを育む学校図書館』

2 研究の実際

(1) 掲示の工夫

図書館の窓や図書館の入り口などに、季節感のある飾りつけや新刊本のお知らせなどのPOPを掲示し、児童・生徒が図書館に入りたくなるような雰囲気を作っている。



(2) 配置の工夫

① 絵本の配置

絵本を低学年の児童にも手に取りやすい配置にした。小中一貫校では、低学年児童だけでなく、中学生も絵本に興味をもっていた。



② ジャンルや作家の掲示

どこにどういった本があるのかが分かりやすいように、本棚の上部に番号やジャンルを掲示したり、作家ごとに本をまとめて区切ったりするなどの取組を行っている。



③ おすすめの本のコーナー

国語の教科書に出てくる本のコーナーやおすすめの本のコーナー（季節や行事などに関する本）、新刊本のコーナーなど、児童・生徒がいろいろな図書に興味をもつようなコーナーを作っている。



④ 古い本の廃棄

書庫にかなり古い本があり、新しい本を置くスペースがなくなってきたため、夏休み中の職員作業として廃棄する本の選定を行った。廃棄することで書庫に余裕が生まれ、新刊コーナーを作るなど、手に取りやすい位置や置き方を考えることができた。



(3) 読み聞かせの実施

昼休みの図書館で図書委員会や地域ボランティアの方による読み聞かせを実施した。小中一貫校では、小学生が興味をもちそうな本を中学生が選び読み聞かせを実施した。小学生は、中学生がどんな本を読んでもくれるかを楽しみにし、中学生は、たくさんの本の中から小学生が喜びそうな本を選ぶことで、さまざまな本に触れる機会になっている。



(4) 個人目標の可視化

児童一人一人の図書カードの裏面に、昨年度の貸し出し冊数と、本年度の目標冊数を記載した。児童の目標が明確になり、意識して図書館に足を運ぶことで図書館利用者が増えると考えている。



(5) 家読（うちどく）の日の取組

家読の日で読んだ本の紹介を図書館に掲示している。「友達がどんな本を読んでいるか」など、興味をもって見ている児童の姿が見られた。

3 成果と課題

(1) 成果

読書の機会を増やす取組や掲示の工夫によって図書館を利用する児童・生徒が増えた。

(2) 課題

西都市は小規模校が多く、魅力的な図書館づくりのために図書委員会の活動を活発にしようとしても限界がある。地道な取組を継続していくことに注力したい。

⑨日南・串間

令和5年度 日南・串間支部 研究のまとめ

小学校 24校、中学校 10校、合計 34校

◇ はじめに

本支部では、来年度の県大会における発表項目が「特別支援教育における読書活動」となっていることから、今年度より以下のような研究主題等を設定し、3つの研究内容（①本地区内における特別支援教育の視点に立った読書指導等の実態把握、②誰もが進んで取り組む読書指導の充実、③特別支援教育の視点に立った学校図書館の充実）で取り組むこととした。今年度は、研究初年度であることから、研究内容①を中心に取り組み、その後、実態把握を基に残り2つの研究内容について取り組むこととした。そこで、今回は研究内容①における研究の実際について報告する。

1 研究主題

『豊かな心と学びを育む学校図書館 ～特別支援教育の視点に立った読書指導の充実～』

2 研究の実際

(1)本地区内における特別支援教育の視点に立った読書指導等の実態把握

研究を進めるに当たって、まず本地区における特別支援教育の視点に立った読書指導等についての実態を把握するために、地区内の全学校を対象にアンケート調査を実施した。以下はその調査結果の一部である。なお、①から⑤の設問は、特別支援学級についての設問であるため、特別支援学級を設置している学校を対象としている（小学校18校、中学校8校）。

① 特別支援学級において、授業以外にどのような読書活動を行っているか。

	小学校	中学校
朝の読書タイムの設定	11	6
読み聞かせの実施	5	1
自立活動において	2	0
ファミリー読書の設定	1	0
業間の時間の読書の推進	0	1

② 特別支援学級において、学校司書や読書活動アシスタントと連携した取組を行っているか。

	小学校	中学校
本の選書や紹介、学級文庫の設置	6	1
読み聞かせの実施	1	2
図書館の利用の仕方や置かれている本の説明	1	0
市立図書館の本の選書や貸し出し	1	0
読みたい本についての生徒との交流	0	1

③ 特別支援学級において、学校図書館を利用した学習活動を行っているか。

	小学校	中学校
教科等における発展的・補充学習	6	0
教科等における調べ学習	5	0
教科等における表現活動	1	0
教科等における読書活動	0	1

④ 特別支援学級における読書活動の課題は何か。

	小学校	中学校
文字を読むことが苦手で内容の理解が難しい	8	2
一人一人のニーズや能力の差に対応した図書の準備が難しい	6	2
読む本に偏りがある	5	2
読書に興味を示さない	3	2
集中力の持続が難しい	1	0
家庭との連携が難しい	1	0

⑤ 特別支援学級において、読書意欲を高めるためにどのような工夫を行っているか。

	小学校	中学校
読み聞かせの実施及びその工夫	10	0
興味のある本の選定や紹介、学級文庫の設置	9	3
読書に関するイベントの開催	2	0
ファミリー読書の設定	2	0
読書の時間の設定	1	0
学校図書館の積極的な活用	1	0
特別支援学級用の本の購入	1	0
交流流学級との連携による本の貸し出し	1	0
学習漫画や絵本の設置	0	1
生徒の実態に合わせた読書指導（ルールを設けず自由に読書させる）	0	1

⑥ 図書館教育全般における課題は何か。

	項目	学校数	具体的な内容
小学校	児童の読書意欲に関すること	5	貸出冊数の個人差、文学的な本や文字の多い本に対する読書意欲の欠如、ジャンルの偏り
	図書館の施設・設備に関すること	3	パソコン・バーコード読み取り機器の未設置、冷房の未設置
	図書司書の配置に関すること	3	図書司書の不足、勤務回数の少なさ
	児童の読書環境に関すること	3	昼休み時間等における読書時間の確保、家庭における読書環境の差
	図書館等の蔵書に関すること	2	LLブック等の配置、図書館の蔵書の古さ
	その他	2	学習センターとしての機能の向上、小規模校による図書館教育全般の充実
中学校	生徒の読書意欲に関すること	2	継続的に本の貸し出しをする生徒の増加、生徒の図書館の利用促進
	生徒の読書環境に関すること	2	昼休み時間等における読書時間の確保、昼休み時間の職員の対応の困難さ
	読書指導に関すること	2	小規模校による図書館教育全般の充実、読書の重要性に関する職員の理解の差
	図書の購入に関すること	2	図書購入費の増額
	図書館の施設・設備に関すること	1	机を配置するための図書館のスペースの確保

(2) 考察

- 地区内の各学校の特別支援学級においても、読書タイムの設定や読み聞かせ、図書司書との連携、図書館の利用など、通常の学級と同様な読書活動に取り組んでいる状況がある。
- 特別支援学級に在籍する児童生徒の読書に関する課題として、文字を読むことが苦手であることや一人一人のニーズが様々であることがあり、それらの課題解決のために読み聞かせや興味のある本の紹介、イベントの開催など、実態に応じて各学校が取り組んでいる状況がある。

3 研究の成果と課題

(1) 成果

- アンケート調査を実施したことで、各学校の特別支援教育の視点に立った読書活動等についての現状や課題、取組等の実態を把握することができた。

(2) 課題

- 各学校の特別支援学級等における読書活動の取組を手がかりとして、研究内容の②、③であるすべての児童生徒が豊かな心を育むために特別支援教育の視点に立った図書館教育の充実（読書指導及び学校図書館の充実）を図っていく必要がある。

学校における読書指導について

1 読書カードの活用

- ・表紙に学期ごとや1年間に何冊読むか目標を立てさせ、書かせた。
- ・図書室で本を借りるごとにスタンプを押すことで、自分が本をどれだけ借りて読んだか分かるようにした。
- ・20冊借りるごとにもう1冊券を配付し、読書意欲を高めるようにした。
- ・読書祭りやその他のイベントの際には、配布されたプリント等を読書カードに貼らせた。
(綾小学校)
- ・読書記録カードを使って、自分の読書について振り返るとともに、読書意欲を高めた。

1～3年生

- ・読書カードに、読んだ本の名前と日付を記入する。感想の欄は、おすすめ度や面白かった度など各学級の実態に合わせて活用する。
- ・図書室で借りた本だけでなく、学級文庫も記入してよいこととするが、できるだけいろいろな本を読んでほしいので、同じ本は書かない。
- ・25冊まで読んだら、次のプリントを上から貼って、続ける。
プリントは後日配付予定。
- ・年間目標100冊を目指して頑張るよう、声掛けをする。

4～6年生

- ・エクセルの表を、児童一人一人のタブレットに配付済み。
(配付されたエクセルの表を確認)
- ・読んだ本の名前とページ数をタブレット上で書き込み、記録していく。
- ・ページ数を入力したら、自動的に総数が計算されるようになっている。
- ・50冊分の記録ができるように作成しているが、足りなくなったら表を挿入して継続する。
- ・いつでも記入ができるように、タブレットのデスクトップに貼り付けておく。
- ・1000ページを目標に頑張るよう、声掛けをしていく。

その他

- ・1学期中の読書量を確認し、頑張っていることを賞賛するとともに、読書が苦手な児童について、個別に支援した。(スモールステップの目標を決める、本の紹介・・・)
- ・目標を達成した児童については、賞状を作成し、児童玄関に掲示した。(森永小学校)
- ・図書室で本を借りるごとにスタンプを押し、20ポイントごとに「もう1冊貸し出し券」や手作りしおり、「新刊貸し出し予約券」を配付するなどの特典をつけ、読書意欲を高めるようにした。
(八代中学校)

2 学期ごとの多読賞紹介 (綾小学校・八代中学校)

- ・学期ごとに各学年で本をたくさん読んだ児童を多読賞として表彰した。

3 読書の日

- ・毎月第2水曜日を全校読書の日とし、宿題の代わりに読書と感想を書く活動をした。
- ・感想を書いたプリントを各クラス2枚ずつ提出してもらい、図書室掲示板に掲示した。
- ・読書の日に合わせて図書便りを発行し、保護者への啓発を行った
- ・読書の日に合わせてノーメディアデーを実施し、読書がしやすい環境を整えさせた。

(綾小学校)

- ・毎月15日が国富町が定める「読書の日」となっているので、お昼の放送で先生方のおススメの本紹介等を流した。また、それぞれの本のポップを作成し、オススメ本とともに図書室に展示コーナーを設置した。
- ・読書の日には「ポイント2倍デー」ということでお昼に放送を流し、読書活動を推進した。

(八代中学校)

4 読書祭り (綾小学校)

- ・町の図書館・中学校・小学校で期間を合わせて読書祭りを行った
- ・読書ビンゴ～各学年で読んでほしい本をビンゴ形式でプリントに載せた。縦横斜めがそろくと景品(しおりなど)を渡した。
- ・読書の木(本の紹介)～各クラスで、自分が読んで良かった本を紙に書き、読書の木に貼って掲示した。
- ・図書新聞(委員会)～図書委員会の児童が図書に関する新聞を書いて図書室横掲示板に掲示した。
- ・絵本と給食のコラボ～絵本に出てくる食べ物に関するものを給食に出してもらい、お昼の放送で紹介した。

5 読み聞かせ

- ・ボランティアグループ絵本の会「まんまる」の方が毎週金曜日に来校し、1校時始めの15分間、計画的に1・2年生に読み聞かせをしてくださった。(綾小学校)
- ・ボランティアグループ「いちょう」の方による読み聞かせ～年間各学年8回
- ・教師による読み聞かせについてを実施した。担任ではない教師による読み聞かせやブックトーク等を通して、読書分野を広げ、読書に対する興味・関心を高めた。
- ・読み聞かせ等の内容については、それぞれの学年に応じたもの等、担当者の方で決定した。(5分から10分程度)
- ・実施後、児童は別紙に感想を記入した。(5分～10分程度) (森永小学校)

6 学校図書館事務職員による取組 (森永小学校)

- ・多読賞紹介
- ・読書の日に向けての校内放送及び図書便りの発行
- ・読書祭りの計画・実施～各学期1回、図書委員会の児童と一緒に計画、実施
- ・図書の整備～絵本に平仮名シールを貼り、整理しやすく見つけやすくした。
- ・図書室の環境整備～季節に合わせた掲示の工夫
- ・県立及び町立図書館からの本の借り入れ(学級文庫)
- ・授業における本の紹介や資料準備、読み聞かせなど

7 ビブリオバトル (八代中学校)

- ・年に2回、全校生徒によるビブリオバトルの大会を行った。
- ・図書室に全校生徒が集まって決勝戦を行い、優勝者を後日表彰することで、次の意欲へと繋げた。
- ・学校だよりや図書だより、学級通信等でも紹介し、保護者への啓発を行った。

1 研究主題

学校司書・司書教諭の役割

～図書主任と学校司書・読書活動アシスタントの連携の在り方～

2 研究の実際

宮崎市図書主任会は、小学校48校、中学校27校、合計75校で構成されている。

小学校には学校司書の配置があり、中学校には読書活動アシスタントが配置されている。

そこで、本年度は、児童生徒の読書活動推進のために、各学校での司書教諭・図書主任と学校司書・読書活動アシスタントとの連携の在り方について研究を進めることとし、次のような活動を行った。

(1) アンケート調査の実施

各小中学校図書主任と学校司書（小学校）・読書活動アシスタント（中学校）へのアンケート調査を実施した。

調査項目は次の内容である。

① 各校図書主任への調査内容

- 1週間における打ち合わせの時間はどれくらいあるか。
- 図書館活用の年間計画・図書館教育全体計画の作成はどうか。
- 図書館研修の実施（予定も含む）はどうか。
- チーム・ティーチング（T・T）の授業はどうか。

② 学校司書（小学校）・読書活動アシスタント（中学校）へのアンケート内容

- 図書主任との連携は図られているか。
- 1週間における打ち合わせの時間はどれくらいあるか。

③ 各学校での実践について

- 各学校での新聞の活用状況はどうか。
- チーム・ティーチング（T・T）による授業はどのようなものがあるか。
- 情報リテラシーの育成はどのように行っているか。

アンケートを行い、現在の各担当の連携状況について確認したり、各学校での具体的な取り組みについて出し合ったりして、研究を深めるようにした。

(2) 図書主任・学校司書・読書活動アシスタント合同研修会の実施

本年度は、7月に各学校図書主任と学校司書・読書活動アシスタントとの合同研修会を実施した。各学校での読書推進のために、図書館運営の中心となる図書主任と学校司書・読書活動アシスタントが共通理解のもとに学校での読書活動を推進していくことを目的として実施した。

当日の内容は次のようなものである。

① 蔵書点検作業について

【説明】

- ・第6次「学校図書館図書整備等5か年計画」について
- ・「第5次子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画の概要」について

【取組事例紹介】

- ・「蔵書点検作業の進め方」について

【協議】

- ・グループ協議：自校での取り組み方について
- ・各校協議：図書主任と学校司書・読書活動アシスタントで自校での取組について協議

② 読書活動推進へ向けての取組について

【グループ協議及び発表】

- ・「令和5年度学校図書館及び読書に関する調査」結果について
- ・不読率及び児童生徒の読書に対する意識について確認
- ・不読者の減少を目指すための取組について

【各学校ごとの協議】

- ・各学校での読書活動推進へ向けた今後の取組について協議
- ・図書主任、学校司書・読書活動アシスタントが果たすべき役割の確認、具体的な読書活動の取組についての計画

合同研修会では、以上のような内容について協議した。グループ協議では、数校と協議を行い、各学校ごとの協議では、学校ごとに今度の取組などを話し合った。

3 研究の成果と課題

(1) 成果

- 図書主任及び学校司書・読書活動アシスタントへのアンケートを実施したことにより、「連携」についての現状や悩み、今後の見通しなどについて確かめることができた。
- 合同研修会を実施したことで、図書主任・学校司書・読書活動アシスタントの読書推進に共通理解をもち、取組むことができた。
- 他校と協議を行うことで、他校の実践を知ることができ、取り入れられる実践は積極的に取り入れていこうという気持ちをもてた。

(2) 課題

- 「連携」の在り方については、アンケートから意識は確認することができたが、どのように連携の充実につなげていくかについてはこれからも実践を通してよりよい連携の在り方を模索していかなければならない。
- 合同研修会で共通理解したことを生かし、各学校での実践に結び付けていくことが必要である。

〈研究担当者 宮崎市立国富小学校 河野 歩美 〉